

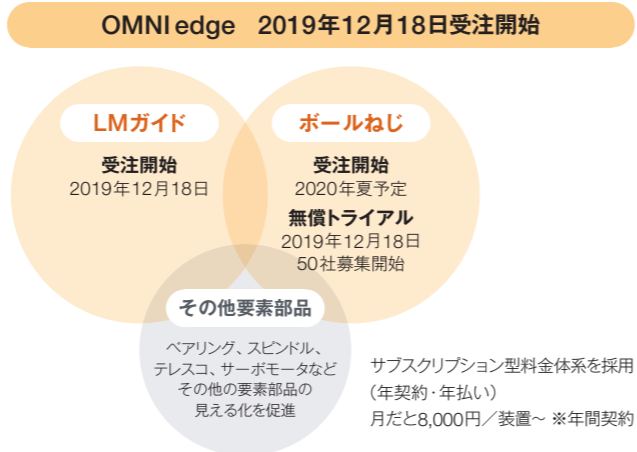
## 中長期的な成長に向けた取り組み

デジタルテクノロジーの急速な進展や、地球環境保護機運の高まり、そして先進国における人手不足や長寿命化などのマクロ動態の変化がメガトレンドを形成する中、「5G」「AI・IoT」「CASE」「インダストリー4.0」「自動化・省人化・省エネ化」といった変化のキーワードが表れています。そして、これらのキーワードから、まさにTHKが提供する様々なソリューションが求められており、その成長ポテンシャルを顕在化すべく産業機器および輸送機器の両事業において各種取り組みを進めています。

### 産業機器事業

## 製造業向けIoTサービス「OMNI edge」、正式受注開始

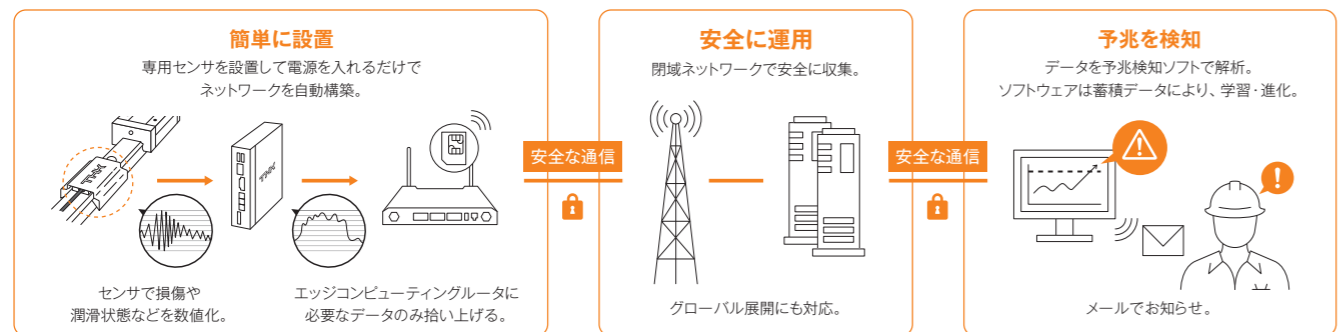
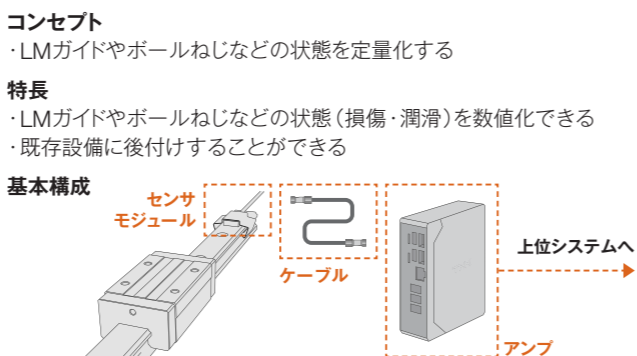
OMNI edgeのLMガイド向けの正式受注を2019年12月18日に開始しました。同時にボールねじ向けについても50社を対象とした無償トライアルの募集を開始しました。OMNI edgeは、2018年10月からの無償トライアル募集に際して、100社を超える企業より申し込みをいただき、トライアルでは、様々な業界の企業51社にご協力いただき、実際の装置環境下でデータ収集、解析を行いました。トライアルを通じて、多くの企業よりご好評をいただいたことからOMNI edgeの商用化に至りました。



### OMNI edgeとは

OMNI edgeは、「THK SENSING SYSTEM」で取得したデータを、シスコのエッジコンピューティングルータ、NTTドコモの回線を通じて、機械要素部品の状態を数値化し解析することで、予兆の検知ができるシステムです。部品状態の見える化により、保全業務の効率化、在庫管理コストの削減、設備稼働率の向上を実現し、生産計画のスムーズな遂行をサポートします。初期投資費用を抑えられるようサブスクリプション型の料金体系を採用するとともに、センサからネットワークをワンストップで提供し、導入が簡単にできるようにすることで、「簡単」「安全」「初期コストゼロ」を実現しています。

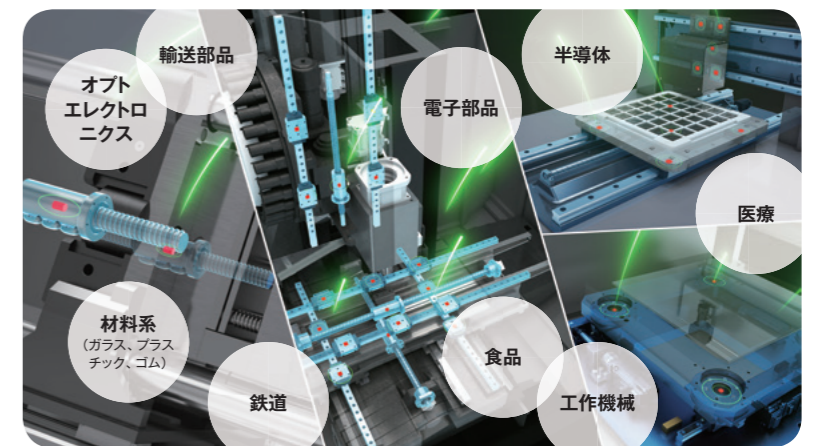
### 「THK SENSING SYSTEM」イメージ図



グローバル対応では各国毎に最適な回線を選定します。

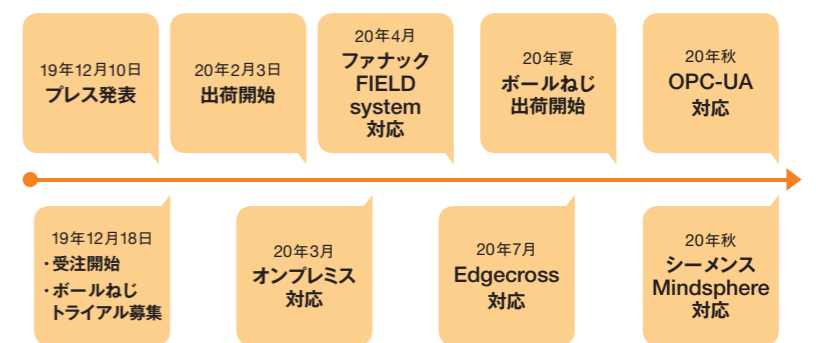
### LMガイド向けトライアル実施業界

OMNI edgeは業界を特定することなく、幅広く、LMガイドが使われている装置に使用できます。工作機械などの専用機械から、搬送機や組み立て機といった汎用機械など、幅広い業界でトライアルが実施されました。



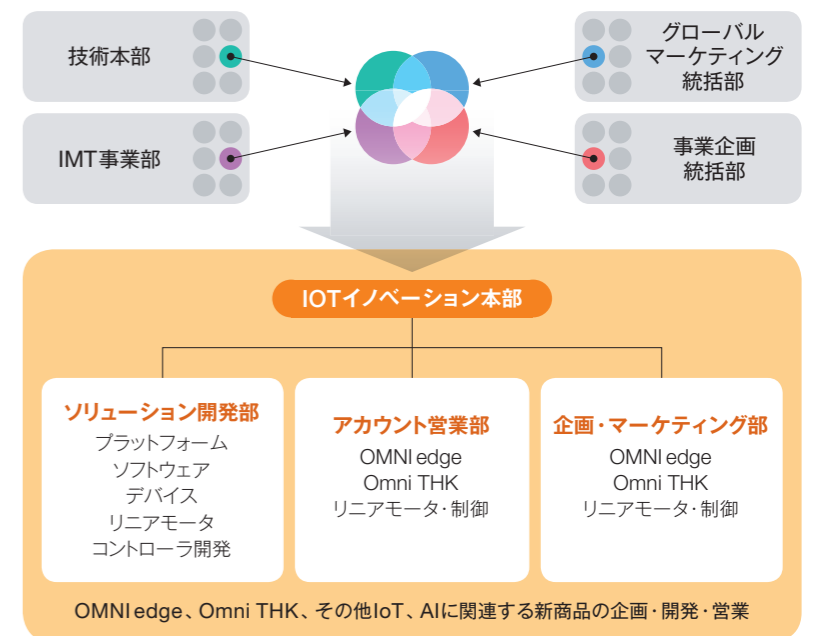
### 今後の展開

LMガイド以外にボールねじなどの他の機械要素部品向けの展開に加え、外部の製造業向けIoT基盤との連携などを進め、より使いやすいサービスにしていきます。



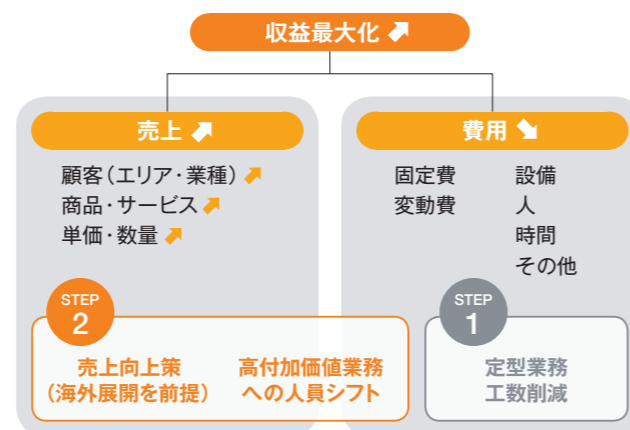
### IOTイノベーション本部の新設

OMNI edgeやOmni THKなど、IoTやAIなどのデジタル技術を駆使したサービスにより、社会やお客様に対するイノベーションを実現すべく、IOTイノベーション本部を、2020年1月に新設しました。これらの実現に向け、あらゆる取り組みを加速していきます。



## THK DX (デジタルトランスフォーメーション) プロジェクト STEP2の始動

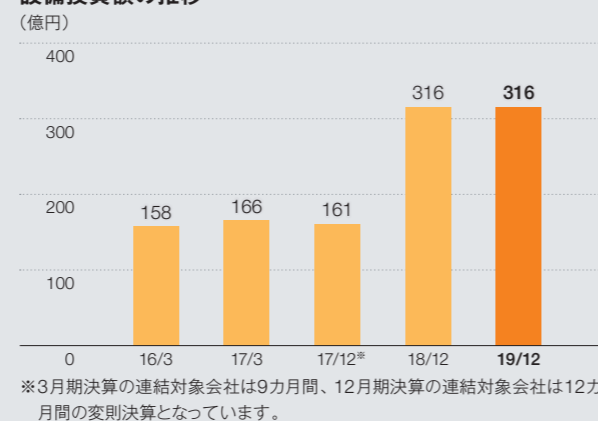
デジタルテクノロジーの進展が世界的に進む中、既存ビジネスに新たな価値を見出し、取り組みはあらゆる業界において急速に進んでいます。そのような中、THKグループ内のあらゆる拠点・部署におけるITを活用した取り組みを包括的にまとめ、今の時代に合った顧客満足度を高めるべく、THK DXプロジェクトを推進しています。2019年度はSTEP1として、あらゆる部門における定型業務の工数削減に努めました。今後はSTEP2として、STEP1により創出した人員をより付加価値の高い業務へシフトするとともに、販売拡大に向けた施策を展開していきます。



## グローバル生産体制の拡充

産業機器事業では、中長期的なトップライン拡大を支えるべく、グローバルで生産体制の強化を進めています。THK山形工場(日本)、THK MANUFACTURING OF VIETNAM(ベトナム)の増築新工場の稼働に加え、THK India(インド)、SAMICK THK(韓国:持分法適用関連会社)では、2020年に新工場の完成、稼働を予定しています。今後も時代の潮流に伴う変化のキーワードから、中長期的な拡大が見込まれる需要を着実に取り込むべく、引き続き生産体制の強化を図っていきます。

設備投資額の推移 (億円)



- THK India (インド) 新工場**  
2020年稼働予定  
品目: LMガイド  
土地面積: 約205,000m<sup>2</sup>  
第一期床面積: 約37,000m<sup>2</sup>
- SAMICK-THK テクノポリス(韓国) 新工場**  
2020年稼働予定  
品目: LMガイド  
土地面積: 約50,000m<sup>2</sup>  
床面積: 約43,000m<sup>2</sup>
- 山形工場(日本) 増築新工場**  
2019年3月完成  
品目: アクチュエータ、ボールねじ、LMガイド  
床面積: 約32,000m<sup>2</sup>
- TMV(ベトナム) 増築新工場**  
2018年11月完成  
品目: ミニチュアLMガイド  
床面積: 約16,000m<sup>2</sup>

## 輸送機器事業



## L&S事業の拡大と自動車向け新製品の拡充

100年に一度の変革の時代を迎えたといわれる自動車産業では、「CASE」が次世代の姿を示すキーワードとされています。CASEとはConnected(繋がる)、Autonomous(自動運転)、Shared(共有)、Electric(電動化)の単語の頭文字を繋げたものであり、これらの要素が連動して革新的な技術やサービスが生まれ、異業種を交えた大きな変化の波が起きようとしています。

そのような中、既存のL&S(リンケージ アンド サスペンション)事業では、THKリズムおよびTRAを中核として新規取引の拡大に向けて販売活動を積極化させるとともに、獲得した新規案件に向けた増産投資を世界各地で実施しています。自動車向けの新製品においては、自動運転に寄与する直動製品を開発、量産しており、様々な機構における直動製品の採用拡大に向けた取り組みを進めています。今後もCASEを追い風に直動製品の需

要の拡大が見込まれる中、これらの採用拡大に向けた開発・販売活動をさらに加速していきます。

## 2021年度の黒字化に向けて

輸送機器事業の2019年度の営業損益は41億円の営業損失でしたが、2020年度についても営業損失の見込みです。2020年度に出荷が予定されていた大型案件が自動車メーカーの計画変更により後ろ倒しになった結果、工場増築をはじめとする先行投資が利益を圧迫するからです。しかしながら、2020年度の終盤より大型案件の出荷の開始が見込まれること、そしてグローバルにおける生産品目・生産ラインの見直しや、人員・組織再編、アウトソーシングに加え、引き続き生産性・工程改善を強化することにより約20億円のコスト改善を図ることで、2021年度には15億円の黒字化を見込んでいます。

- THK RHYTHM NORTH AMERICA (アメリカ)**  
増築新工場 2019年完成
- THKリズム常州(中国)**  
増築新工場 2019年完成
- THK RHYTHM MEXICANA (メキシコ)**  
増築新工場 2018年完成
- THKリズム九州(日本)**  
増築新工場 2019年完成

生産拠点: 14  
開発拠点: 1